

小金井市地域情報化推進委員会 第3回 会議記録カード		平成16年1月16日(金) 15時05分～ 17時33分		場 所	市民会館 萌え木ホール
出 欠	※■が出席、□は欠席				
	■廣瀬委員長 □和田委員長職務代理 ■伊藤委員 ■田口委員 ■嶋田委員 ■津田委員 ■岩下委員 ■榎平委員 ■梶河委員 ■小室委員 事務局 { □企画財政部長 ■情報システム担当課長 ■行政管理課主査 ■情報システム係主事 ■情報システム係主事				
議 題	1 小金井市地域情報化推進委員会(第2回)会議記録カードの承認について				
	2 協働の仕組みづくりについて				
	3 新アクションプラン(案)について				
	4 その他				
傍聴の可否	可	傍聴者の数	8名	備 考	
(議事進行：廣瀬委員長)					
1 小金井市地域情報化推進委員会(第1回)会議記録カードの承認について					
○p4「できるかに否かに」は「できるか否かに」の誤り。					
○その他訂正等がなければ承認することとしたい。					
[意見・質疑応答など]					
○開催日時には年を追加していただきたい。(委員長)					
-訂正することにした。(事務局)					
-本件については、承認され、以上で終了-					
2 協働の仕組みづくりについて					
(本件については、委員長より協働の仕組みづくりを検討の上、計画について検討したい旨の説明があり、了承された)					
○まず、どういった形で答申するか検討したい。計画に含めるか、別立てとするか方針として決めてから、対象など中身について議論したい。					
[意見・質疑応答など]					
○行政のみに収まりきらない部分について、委員会は、パートナーとなりえる人たちの代表として、こうやっていこうと提言することがありえる。(委員長)					
-委員会の後、どうやってIT化を進めるのか、次の組織作りをするきっかけとなる答申					

が必要だ。(嶋田委員)
－市の案をベースに、我々がどのような形で踏み込んでいけばいいか議論すればよい。
(槇平委員)
○アクションプランを作ったら、同じメンバーで評価する。継続性のある委員会と議論の場が必要だ。(津田委員)
－推進体制と評価体制についてアクションプランで出していけばいい。(梶河委員)
－前回委員会で継続性については認識が一致している。(槇平委員)
○まとめ方については、基本的にアクションプランの中に推進体制、継続的な評価体制を明確に書く。3つの柱の具体的な事業計画に加え、全体の推進体制づくりとそれぞれの役割について、明確に位置づけるということによろしいか。(委員長)
－異議なし
○もう1つ、より多様な市民の方が参加できる場としてネットワーク作りをするということがあるが、それは1つでやるのか、別々にやるのかという論点があるが、どう考えるか。(委員長)
○事業費は未定ということだが、組織づくりにかかる費用について、予算はあるのか、どの程度あるのか。(嶋田委員)
－最終的には、市民、企業・大学等、市の3つの主体の中で、市はその1つ。それぞれの主体がそれぞれに出来ることをやるべきであると、イメージしているが、協働の仕組みづくりの立ち上げの中では、出来ることがあると考えている。(事務局)
－定義があやふや過ぎないか。(嶋田委員)
－行政管理課が主管課であれば一定の事務等は処理されるにしても、委員会や評価体制をどうするのか、アンケート等をするとなれば、費用が必要である。それらについてはどう考えるのか。(委員長)
－新アクションプラン案で、本当に予算が必要となるのはほんの一部。それらに焦点を当てて議論すべきではないか。(津田委員)
－会議を開くとして、関係団体を数えると結構な人数になる。その事務費には雑費等がかかるがどうするのか疑問だ。(嶋田委員)
－それぞれ出てくる事業費については津田委員の仰ったとおりだが、この委員会を来年続け、その枠組みで続けるつもりなのかどうか。(委員長)
－行政管理課としては、この委員会の予算要求をしている(事務局)

<p>－ネットワークづくりみたいな大きな話は予算措置をどうこうという話ではない。立ち上げ時の雑費は、多少は市でどうにかしなくてはいけないと思う。(田口委員)</p>
<p>－委員会を開くことに伴って発生する雑費は、行政が責任を持ってやるべきだと考えているが、どのように進めていくかは市民が主体となって進めていくべきであり、そういった方向へ小さいところから確実に段階的に進めていきたいと考えている。(事務局)</p>
<p>－予算と議論は鶏と卵。決着をつけるには、目標としてある程度の深さのある言葉を入れればよい。(津田委員)</p>
<p>－新アクションプランの各事業と協働の仕組みづくりについては、切り分けていいのではないか。(田口委員)</p>
<p>－人の動きは極めて有限なので、行政が出せる人数については明確に。(委員長)</p>
<p>－役所として、何をどれくらい負担できるかスタンスを明確にすればいい。(嶋田委員)</p>
<p>○誰がやろうが、予算があろうがなかろうが、最終的には行政が責任を負わねばならず、協働の仕組みづくりの予算獲得の手段として、新アクションプランを作ろうということではない。また、ITボランティアとNPOの切り分けがよく分からない。NPOとボランティアの使い方はまったく違う。(伊藤委員)</p>
<p>○それらに関わるのは、協働の仕組みづくりと一言で言っているが、それは一つなのか、パートナーが違うので分けるのか、イメージをまとめないと議論が混乱してしまう。(委員長)</p>
<p>－1つか3つかという方法の他にも、いつ、どこで、誰がやるのかというのが大事だと思う。(梶河委員)</p>
<p>－今の議論のキーワードは、継続的な委員会である。そこでは、各分野の専門家の他に一般の方が入っていることが大切だ。また、行政で、3ヶ月に一度などとスケジュールを作っておくことが重要だ。その内、地域情報化における監査や評価はどうやるのかというプロジェクトも考えた方がよい。(津田委員)</p>
<p>－協働の仕組みづくりは1つのイメージ。大本のところでは人がどう繋がっていくかということだが、継続ということから言えば、誰を呼びたいかより、来たい人でないと続かない。(田口委員)</p>
<p>－田口委員に賛成。評価することはよいが、ぎちぎちにしても前に進まない。(伊藤委員)</p>
<p>－必要に応じて、部会を作るということでよいのではないか。(梶河委員)</p>

<p>－評価はゆるやかでよい。お金をかけるもののみ、きっちり。(嶋田委員)</p>
<p>－言葉だけ評価と入れておいて、自然に評価される方がよい。(梶河委員)</p>
<p>－評価には広い意味がある。第三者が監視し、議論していることが大切。(津田委員)</p>
<p>○方向性の議論ばかりで、入り口にいる。中に入らないといけない。委員長に集約していただいて、新アクションプランに反映するか議論を進めてほしい。(槇平委員)</p>
<p>○新アクションプランには、包括的なものとテーマがはっきりしているものと少し性質が違うものがあるため、新アクションプラン案について説明を受け、少し具体的な議論をして、最終的に協働の仕組みづくりに戻るとのことしたい。(委員長)</p>
<p>－本件については、以上で終了－</p>
<p>2 新アクションプラン案について</p>
<p>(本件については、資料に沿って、事務局より説明があった。)</p>
<p>○前回の議論を踏まえて、予算措置のないものを含め、協働対象や事業の主体を書く欄を設けた。</p>
<p>○コミュニティポータルサイトの運営体制について、まず準備会を作り、協議会体制を作りたいと考えている。</p>
<p>○IT講習会、eラーニングの市民講座、ITボランティアについても協働の仕組みが必要であり、同様の枠組みが必要になると考えている。</p>
<p>○創造的産業の形成については、協働の対象が商工会や商店とウェブコミュニティの場合と異なっているのが問題となり、どう扱ったらよいか検討願いたい。</p>
<p>○事務局の当初のイメージとしては、協働が必要な分野について1つの委員会ができて、必要に応じて各種の委員会が立ち上がるというイメージを持っている。</p>
<p>－以下、説明省略－</p>
<p>[意見・質疑応答など]</p>
<p>○コミュニティポータルサイトの運営協議会は、地域の情報がそこからいろいろな場につなげていくというものですから、必然的に包括的。これが1つ、一番の総合的包括的なものとしてあって、ITボランティアや学校などに関心があればそれぞれ分科会としてやるというのが1つの基本的なイメージだ。他方、経済・産業の分野となると、地域で括ものだけでなく、ちょっと幅広く捉えて、経済課が責任を持って、別のネットワークとした方がよいとも思う。両者はまったく違うイメージとなる。(委員長)</p>

○教育委員会が絡むところと産業政策については、それぞれに計画を持っている。いずれも整合性が取れるように連携を取っており、それぞれの部分については、経済課、教育委員会の関係課が行うようにと了解はとっている（事務局）
－地域情報化について、包括的・横断的に考えられるような機関が1つ必要。この委員会がそうであって欲しい。そのための予算も必要で、市が単年度予算で難しいならば、恒久的に取り組むことも考えなければいけない。（小室委員）
－確かに行政は縦割りになりがちだが、前期 I T 基本計画に各分野の職員が参加して策定したのだから、統合はされていると見てよい。（委員長）
－小室委員の懸念は、事務局の懸念であり、そのために全庁体制のプロジェクトチームを作り、市長がトップである I T 推進本部で承認を取って、前期 I T 基本計画を作っている。（事務局）
－小室委員には言い続けていただきたい。一足飛びには変わらないので、言い続けることが大事。（津田委員）
○ I T を道具として見たとき、機器を用途別に使う時代は終わるので、機器とアプリケーションの階層化を、いずれ検討する必要がある。（津田委員）
○ウェブコミュニティの運営協議会を総合的な I T による地域情報化の推進、市民との協働づくりの場として想定し、その中で必要に応じてテーマ毎に分科会として深まったネットワークをやっていく、そういうことでやっていけるという印象を受けたが。（委員長）
－賛成。（各委員）
○いきなりコミュニティポータルサイトという総合のところで、誰が手を挙げてくれるかという話をすると厳しいので、もう少しテーマのはっきりした、例えば I T 講習会で協働できる人として念頭に浮かぶ人をあげていって、そういった人たちが連携できる仕組みをイメージしていく、そういう段取りでよろしいか。（委員長）
－賛成。（各委員）
－ここまでの議論で出てきたのは、 I T ボランティアは既に組織化されていて、一つキーになると思われる。（委員長）
○小金井市のホームページは市の職員が検討して作っているのか。（嶋田委員）
－市役所内に部会を持っており、そこで検討している。（事務局）
－そこには住民の意思は反映されているのか。（嶋田委員）

<p>－基本的には、市報を電子的に提供したものと理解いただきたい。直接、市民の方が情報提供するようなことは、現在やっていない。(事務局)</p>
<p>－行政サイドで行うもののガイドラインがしっかりしてくれば、その部分を拡充して、市の声を反映して、見やすく等、やっていけばいい。その先はどうなっているのか。(嶋田)</p>
<p>－現状のところ、市のホームページは、あくまで市役所の情報発信の場で、その検討はしていない。(事務局)</p>
<p>－その議論はきりが無い。市役所の情報発信は市民サービスに結びつけばよいという趣旨で作られており、そういう前提で、新アクションプラン案の検討を通して、将来の姿を考えていけばよい。(槇平委員)</p>
<p>－この点については、情報発信の場、インタラクティブ性という考え方があり、インタラクティブについて、案の中で考えてもらいたい。1つがパブリックコメントで、もう1つは、高知県の事例があるが、個別サービスがある。さらに、FAQ(よくある質問と回答)の装備がある。3つをそれぞれ備える必要がある。(津田委員)</p>
<p>○議論しなければならないことに2つの性質がある。1つは、個別の市の事業についてでそれらは展望に書いていきたい。これについては次回の会議までにメーリングリストに提起していただきたい。それを踏まえて次回は展望も埋まった形でまとめて欲しい。もう1つは、協働対象についてで、こんな活動をしている団体とか分かるように。できれば、そういう方たちから年度内に意見を聞ければ望ましいし、それが無理でも、次年度の協議会準備会の中で行うようにしていけばよい。(委員長)</p>
<p>○市のホームページと市報の関係が逆になって、スピードが生きるようになればよい。また、双方向性や動画とかもどんどん取り入れていけばよい。学校のホームページにストリーミングで校歌を歌っているシーンなどがあつたら面白い。(岩下委員)</p>
<p>○参加したらいい団体という話だが、市の大きな祭りはコミュニティであり、それを取り込めたらと思う。ただ、情報をどのように取り込むかがある。バラバラだと検索は難しい。(小室委員)</p>
<p>－確かに、検索は難しい。(津田委員)</p>
<p>－しかし、必要な情報はやはり探さないといけないのではないか。(嶋田委員)</p>
<p>－そうではなく、情報が集まった場を作ろうという話ではないのか。(小室委員)</p>
<p>－お祭りというものをイメージして、場を作ろうということか。(梶河委員)</p>

<p>一年にいくつもあるお祭りを全て扱ったサイトがあれば、お祭りに行くたくさんの人が必ずアクセスする。バラバラに存在する場をまとめるように、ウェブコミュニティを創造できたらと思う。そういったものを扱えないという市の限界は分かってきた。(小室委員)</p>
<p>ー検索対象が多すぎる時代だ。検索サポートAIが必要になる。検索がちゃんとできるサイトデザインを作してほしい。(津田委員)</p>
<p>ーコミュニティポータルというときに、お祭りという、ボランティアとかのお堅い切り口とは違うキーワードは重要な視点だと思う。検索もそうだ。(委員長)</p>
<p>○もう1つ、パートナーとして念頭に置くべき人を考える必要がある。(自治体)</p>
<p>先進的な近隣自治体の担当者とかを呼んで、参考にしてもよいのではないか。(津田委員)</p>
<p>ー子育てのネットワークの情報を集約している人や、介護を中心に医療、保険についてやっている人もいる。(梶河委員)</p>
<p>ー多くの人がいるので、そういった人たちを具体的にどう呼ぶかは、今度の組織で議論すればよい。現在は、そういった人たちが必要だというところでよいのではないか。(嶋田)</p>
<p>ージャンルさえ浮かばないので、ここでそういった点を考えるべきではないか。(梶河委員)</p>
<p>ー10人くらいで行うのか、30人くらいでやるのかでイメージが違うのでは。(委員長)</p>
<p>ーまず、組織について考えるということか。(嶋田委員)</p>
<p>ーこれもメーリングリストの宿題としたい。(委員長)</p>
<p>○もう一つの宿題は何だったか。(嶋田委員)</p>
<p>ー展望について。これは最終的な到達点として、年次でない方がよいのでは。(委員長)</p>
<p>ーかなり玉虫色ではないか。(嶋田委員)</p>
<p>ー津田委員の仰ったように、評価基準となるような、こういう姿であるべきだということ、展望ということばで書ければいいのではないか。(委員長)</p>
<p>ー目指す姿ということだ。到達点があることが重要だと思う。(津田委員)</p>
<p>○ITのネットワーク利用の推進について、教育の現場でどういうことが起こっているかをひとこと言っておきたい。学校の先生は専門家からすれば普通の人。そういった人にサーバーの管理を委ねるのは無理がある。これは研修で解決できる問題ではない。ユー</p>

